

自分自身がいいと思うものを提供していきたい

独特の雰囲気をたたえた
我拝師山を背に
ゆったりと穏やかな空気の中、
聖心堂接骨院はあります。
開業して10年。
まだまだこれからという
原 歩先生にお話をうかがいました。

原 歩先生

森ノ宮医療学園専門学校
第23期昼間部 鍼灸学科卒業



「父のヘルニアを治したい」 からスタート

高校まではバドミントンでインターハイ四国大会に出場したりと、自分なりに一生懸命にスポーツに取り組んできて、体育の教師になりたいと、スポーツ枠ではなく、自己推薦で短期大学へ進学しました。短期大学では、ゴルフ部に入って、インカレに出たりしましたが、学校全体にオリンピック候補になるような選手が多く、才能の差が歴然でしたね。

大学を卒業する時、ちょうど国体も終って、教員枠がなかったこともあって、スポーツトレーナーを目指そうか

と思ったのですが、当時は今と違って女性でスポーツトレーナーという道はほとんど開かれていなかった。それで、まず何か手に職をつけてということと、以前から父が「鍼灸の資格を取ったらどうや」と言っていたこともあって、森ノ宮医療学園専門学校を受験したわけです。実は、父はヘルニアで、その苦痛を少しでも軽くすることができればという思いもありましたね。

森ノ宮ではクラスメイトに 助けられて

私は鍼灸学科23期です。クラスメイトには、現在、鳥取でターミナルケア等に力を注いでいらっしゃる竹中浩

司先生や森ノ宮で教員をされている金光寛和先生、開業してがんばっている山本澄代先生、コースは違いましたが小島賢久先生等々、本当に勉強熱心で実力もある方々がいっぱいいて、不勉強な私は皆さんに助けられっぱなしでした。

毎日の授業でもそうですが、定期試験、さらに国家試験前などは全員合格を目指していこう！とクラスが一つにまとまっていました。それがあったからこそ、ちゃんと進級し、無事に鍼灸師になれたのだと思っています。「仕事もしてないんだから勉強くらいしろ」ってクラスメイトに言われていたくらいですから（笑）。